

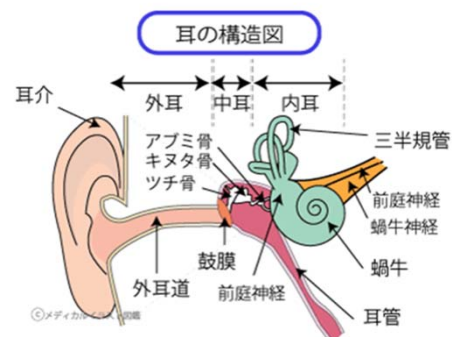
1 より良い聞こえを目指した聴力改善手術

当科では耳科領域では聴力改善に力を入れております。音が耳の中に入っていくと鼓膜が振動し、中耳の中にある耳小骨に振動が伝わり、さらに振動を電気信号に変化する内耳という神経に伝わっていきます(図1)。難聴にはこの鼓膜(図2)・中耳・耳小骨に原因がある「伝音難聴」と内耳・神経に原因のある「感音難聴」があります。(両方に問題があるものを「混合難聴」といいます。)このうち伝音難聴と混合難聴が手術治療による聴力改善が期待できます。

たとえば生まれつき耳小骨がなかったり、形が変形していたりする「先天性耳小骨奇形」、けがで耳小骨がずれてしまった「外傷性耳小骨離断」、鼓膜が破れて穴が開いている「慢性中耳炎」(図3、図4)、さらに慢性中耳炎がこじれて上皮という耳あかと同じ成分が耳の奥の骨を壊して広がってしまう「真珠腫性中耳炎」(図5)、耳小骨と内耳の間の振動の伝わりが悪くなる「耳硬化症」などたくさんの伝音(混合)難聴を生じる病気があります。

「耳だれを繰り返していて聞こえも悪いけど、子供の頃に中耳炎になって鼓膜がなくなっているから仕方がない。」といったお話を外来で時々聞きますが、こういった方の多くは聴力の改善だけではなく、わずらわしい耳だれも止まる可能性がありますのでご相談ください。単純な慢性中耳炎であれば9割以上改善します。真珠腫性中耳炎は骨を破壊する病変の除去が主体の手術になりますが、なるべく聞こえの温存や改善に努力しております。

近年、内視鏡下手術が様々な分野でとり入れられておりますが、耳科手術においても有用性が報告されております。当院では2014年から導入し、中耳手術において狭くて複雑な部位を内視鏡下に観察しながら確実に手術が行えるようになりました(図6)。



(図1) 耳の解剖



(図2) 正常の鼓膜(左耳)



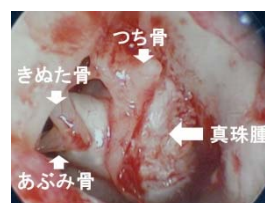
(図3) 慢性中耳炎(右耳) 鼓膜に穴が開いている



(図4) 慢性中耳炎術後 薄切り軟骨による鼓室形成術を行った後の状態です。



(図5) 真珠腫性中耳炎(右耳)



摘出前



摘出後

(図6) 内視鏡下耳科手術(右耳) 鼓室内の真珠腫摘出前と摘出後の状態。耳小骨を温存して摘出できました。数mm大の耳小骨が100倍程度拡大され、その裏側も観察できます。